

第43回名利巡り 名利巡り(二十五霊場巡り) ご案内 5月24日(日)

<参加者募集!> 平成21年から法然上人の遺跡二十五霊場の二巡目を巡って参りましたが、その二巡目もいよいよ最後のお寺となりました。足を伸ばして四国まで行きます。

高松 法然寺 建永2年(1207)、法然上人72歳の時、四国に流罪となって住まわれたのが小松庄の生福寺。徳川家康公の孫、高松藩主松平頼重公は、家康公が知恩院を徳川家の菩提寺にしたように、頼重公も浄土宗に帰依し、寛文8年(1668)法然寺として再興し菩提寺としたお寺です。

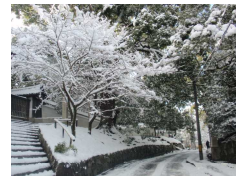
高松 郷屋敷 高松市牟礼の里。有形文化財の与力屋敷です。ここでお昼をいただきます。

淡路島 神戸薫寿堂 お香作り百余年の歴史を持つお線香屋さん。製作工程を見学します。帰りには淡路オアシスのサービスエリアでお土産もたっぷり買っていただけます。どなたでも参加できます。お友達をお誘いの上、多数のご参加お待ちしております。

<雪で始まった平成27年> 元旦はお天気が良かったですが、1日の午後から吹雪き始めました。左は1月1日の午後5時半頃の写真、日が暮れた石段に白く雪が積もり始め、吹雪いている雪が写っています。右上は、翌2日の日の出時刻、朝7時過ぎの写真です。白く境内が雪に覆われました。豊中市の天然記念物、安楽寺のソテツは雪の寒さにも負けなたくましさです。



1月3日朝9時、雪の道路をトロトロと知恩院へ出仕。知恩院前の木々に雪の花が咲き、阿弥陀堂は雪化粧(写真左の2枚)。京都は62年ぶりの記録的積雪。初詣客のために、早朝から職員が雪かきに追っていました。



< 『一日喜び』・・・あるおばあさんの言葉 >

いつも月参りに伺うおばあちゃんの言葉です。お坊さんにお参りしてもらうことをとても大事にされる方です。高齢になり体が自由にならなくなっておられ、数年前には、梅田に出かけられた時、急に心不全を起こし、倒れられたそうで、幸いに道行く人が救急車を呼んで下さり一命を取り留められたというようなこともあったそうです。病院通いもあり、お体のご不自由もあり、それ以来、娘さんかお嫁さんに来てもらわないとお参りがしてもらえない日々をお過ごしです。

過日お参りしますと、お元気そうなので「今日はお顔色もいいし、お元気そうですね」と申し上げると、「食べるものは美味しいし、この子ら(娘さんのこと)も来てくれるし、こんな結構なことはありません。ありがたいです。一日喜びの毎日です。」とおっしゃっておられました。

『一日喜び』こんな良い言葉があるんだと、教えられました。『今日一日を喜び、感謝して過ごさないと・・・』と、お参りに伺って教えられることも多いです。



2月16日(月)豊中市仏教会主催の「涅槃会の集い」。例年通り、安楽寺コーラス「ピース・ダーナ」が法要に色を添えました。法要のあと、「ちひろ」さんのコンサート。ちひろさんは金子みすゞの詩に曲をつけて全国でコンサートをされている作曲家、歌手で、トークでは命の大切さを話されました。安楽寺ピースダーナは、法然上人八百年大遠忌の記念曲、さだまさし「いのちの理由(わけ)」を歌いました。1月の阪神淡路大震災、3月の東日本大震災、「いのち」を考えることの多い冬です。



次回の五重相伝は平成29(2017)年に開筵(かいえん、開くこと)いたします。

寺から 里へ
智眼 ちげん

No.152号 平成27年3月1日
安楽寺
E-mail jyusyoku@anraku-ji.jp

春のお彼岸法要

雪の多い冬でした。皆様お変わりございませんか。

来る三月二十一日(土、春分の日)

午後二時より

春のお彼岸法要を奉修し、貴家ご先祖のご回向をいたしますので、ご近所お誘いあわせの上、家族お揃いでご参詣いただきたく、ご案内申し上げます。

☆法話・住職 題:「遭い(あ)い(あ)え(え)う(う)こと難(かた)し」

※受付(帳場)が混雑しますので、法要が始まるまでに

受付へお越しください。 ※同封振込用紙で申し

込まれる方は3月14日までに振込んで下さい。

※当日に回向を申し込まれる方は

同封の申込用紙に戒名、先祖代々

と記入の上お持ち下さい。



2月3日知恩院でも諸堂で豆まきが、袴を着た職員によって行われました。写真は屋根工事中の三門前の豆まきの様子です。福はうち～!

<2月の掲示板>

・手を合わせ 心の玉子
あつためよう

<3月の掲示板>

・忘れまい
ご先祖も待ってる 春彼岸

4月5日(日)1:30~3:30花祭り写経会

花御堂をお祀りし、写経会を行います。初めての方も手ほどきします。遠慮無く参加下さい。

<回向ってなあに・・・?> このお寺便りと共に「回向申込書」を同封しています。

「回向」:「えこう」と読みます。インドのサンスクリット語「パリナーマ」の漢訳で、「転回する・変化する」の意味。自分が積んだ修行をご先祖さんや亡き人にお供え(供養)し、その功德を亡き人に方向転換させます。さらにそのことがまた、自分に回って戻ってくるのです。

仏教とは自分が修行して仏に近づくための教えで、自分の積んできた仏道修行の功德を他にすることが「回向えこう」で、自分の善行を他に振り向けていくとやがて、振り向けた功德が、また自分に戻ってきます。善行が回り回っていくので「回向」というのです。

お寺参り・回向は、何も老人世代だけのモノではありません。どうぞ、若い方も一緒にお参り下さい。お寺に申し込みに来られない人は振込用紙に戒名を書いて振り込んで下さい。

五重相伝会ってなあに? Part 3

私たち仏教徒は、自分の人生をかけて「仏の道」を進むことが本来のあり方です。その一つがお寺の法要にお参りしたり、自宅にお坊さんにお参りしてもらったりすることなのですが、自営業など毎日の仕事や会社勤務で中々仏教徒の修行をすることが出来ないのが普通です。そこでごく普通の人でも仏教の修養を身につけるために整えられたのが、浄土宗の「五重相伝」です。人生に悩みを抱える人は何も今の人たちに限ったものではありません。ずっと昔の人たちも同じです。それで浄土宗では、江戸時代に、誰でもが受けることの出来る「五重相伝」という法要が整えられ、時期を定めて仏教の教えを聞き、みんなと一緒におつとめをしたりすることで自分の心に仏道の気持ち醸成していく法要です。是非自分の人生を振り返る機会としても受けていただきたいのです。